九鼎会　症例検討

２００８．５．２４　宮崎大学医学部漢方医学研究会　二年

Problem list

足の冷えがひどい　→　寒証
元来はやや暑がり　→　陰虚
食欲低下（体重低下）→　脾胃の気虚
尿がうすい　→　寒証　腎陽虚
夜間に一回は尿意がある　→　寒証　腎陽虚
やや疲れる　→　腎陽虚

望診　身長 152 センチ　体重：44kg
　　見た目は元気　色白　白髪　眼は軽度のギラツキあり　皮膚はやや乾燥傾向
　　足：蒼白

舌診　舌体　やや淡　舌苔：やや白苔　やや水滑
聞診　声色はやや高い　多弁
切診　両足は触ると冷たい
脈診　全体にやや沈　両側尺脈：やや虚　特に右尺脈が弱い　左肝脈はやや細
腹診　腹部の温度の低下は顕著ではない　臍下・臍右の悸あり　少腹不仁はハッキリせず

八鋼弁証

裏　寒　虚　陰陽　　闘病できないほど弱っている状態でもなく、激しい闘病反応も生じているわけでもない為陰陽を決定することはできない

病因病邪弁証

寒　　裏寒の冷え、蒼白、頻尿、尿清長といった特徴にあてはまるため

気血津液弁証

主に陽虚

臓腑弁証

主に腎、付帯して脾

加齢、閉経とともに性腺機能の衰退（腎精の減少）
↓
腎機能低下により陰陽のバランスがくずれる（更年期）
↓
やや腎陰虚ぎみに傾く　…以前は暑がり、白髪

そんな時…
陰虚のバランスが乱れ、腎嘘衰気味なところへ寒邪の侵入（６月）
↓
腎陽虚　…　冷え、足蒼白、舌　白苔・淡、頻尿、尿がうすい（膀胱は腎と対応している）

ただし陽虚は下肢のほうで強く生じ、腎から遠い頭部では陽虚が強く起こっていない為、
多弁、声が高い、目のギラツキといったことが見られる

脾は腎に温煦されて運化作用が強められる。腎陽虚で脾を温煦できなくなる

脾気虚　…食欲低下　沈脈など、運化作用低下により皮膚の乾燥

治法　　補陽

処方
ゆっくり治療する場合　　八味地黄丸去熟地黄
山薬　12g　補気と養陰に働き、脾の精血を滋補し腎陰を滋潤する
山茱萸 12g　補益肝腎に働き、滋陰にも補陽にも働く肝腎不足の要薬
沢瀉　9g　利水滲湿で停滞した水湿をまわす
茯苓　9g
牡丹皮 9g　活血化オ、桂枝・附子と協同して腎絡を通じる
桂枝 3g　　通陽し腎陽を鼓舞する
附子 3g　　腎陽を補い腎精を益する

即効性を求める場合　　右帰飲去熟地黄
山薬 6g　山茱萸 3g　附子 3g
枸杞子 6g　補腎益精、滋陰
炙甘草 3～6g　温中益気に働き、附子の毒性を弱める
杜仲 6g　　温補肝腎、補陽
肉桂 3～6g　真陽を温補